

令和元年度

八千代市生活支援体制整備事業協議体 第2回会議録

日時 令和2年2月26日（水）午後1時30分～午後3時40分

場所 市役所2階 第1・2会議室

- 議題
1. 八千代市生活支援体制整備事業協議体委員の委嘱について
 2. 八千代市生活支援体制整備事業協議体の会長の選出について
 3. 生活支援体制整備事業の説明及び第1層協議体の役割の再確認
 4. 各委員の自己紹介・各団体の取り組みについて
 5. 各生活支援コーディネーターの活動報告及び次年度の計画について
 6. その他

出席者 保坂委員，犬塚委員，山崎委員，鈴木委員，倉沢委員，白濱委員，薄井委員，中台委員
吉垣委員，鈴木委員，伊藤委員，山下委員，八巻委員，庄田委員，野添委員，中村委員，
森田委員，関根委員

事務局 長寿支援課齋田課長，長寿支援課地域包括支援センター若林所長，
長寿支援課櫻井主査，長寿支援課関口主査補
長寿支援課石橋主任保健師，長寿支援課鈴木保健師

公開又は非公開の別 公開

傍聴人（傍聴人定員数） 0名 （5名）

鈴木

皆様、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまより令和元年度八千代市生活支援体制整備事業協議体の第2回会議を開催いたします。

本会議は、「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」の規定により、会議を公開するとともに、会議録作成のため、録音させていただきます。あらかじめご了承ください。

皆様にご案内いたします。

本日、シルバー人材センターの松村様は、所要のため欠席と連絡をいただいております。

それでは、次に本日の会議資料の確認をさせていただきます。

本日の次第

八千代市生活支援体制整備事業協議体名簿

令和元年度八千代市生活支援体制整備事業協議体第2回会議席次表

八千代市生活支援体制整備事業協議体要領

資料1 生活支援体制整備事業の説明及び第1層協議体の役割の再確認

資料2 生活支援コーディネーターの活動報告～2019年度～

資料3 （勝田台圏域）平成31年度第2層生活支援体制整備事業協議体 1年を振り返って

資料4 （村上圏域）今年度の取り組みについて

資料5 （八千代台圏域）平成31年度生活支援体制整備事業のご報告

資料は以上となっております。不足している方がおられましたら、挙手をお願いいたします。

なお、1月1日付の委嘱状を机の上に置かせていただきました。

よろしくをお願いいたします。

令和2年1月1日から委嘱替えとなり、現在会長が不在のため、本日の会長選出までの進行は私が行います。

議題1 八千代市生活支援体制整備事業協議体委員の委嘱について

お時間の関係上、委嘱状の交付は皆様の机の上に置かせていただくことで変えさせていただきます。委嘱期間は令和2年1月1日からの2年間となっております。お名前等に間違いがないか、ご確認をお願いいたします。

よろしいでしょうか。それでは次の、議題の2に進みます。

議題2 八千代市生活支援体制整備事業協議体の会長の選出について

どなたか、推薦あるいは立候補の挙手をお願いいたします。

立候補ではなくて是非この方をお願いしたいという方がいらっしゃいますか。

白濱

やちよケアマネ・ネットワークでケアマネをやっています白濱と申します。

よろしくお願いいたします。後でケアマネ・ネットワークは何をしているところかお伝えするのですが、この協議体は最初から参加しているのですが、元々目標としているの

は地域包括ケアシステムという、高齢者を支えるシステムを地域でどうやっていくかということに、我々ケアマネジャーがどういうことができるかということで参加しているのですが、一緒に民生委員さんとの繋がりをいろいろ考えている中で、ケアマネはどうしても二の足を踏んでいたところを民生委員さんの方から声をかけていただいて、交流の場、繋がりを作っていただいたことがあります。地域で考えていくと民生委員さん、児童委員さん、支会の方などに精通していて繋がられる方が会長になっていただけたらいいのではないかとということで、ぜひ保坂委員に会長になっていただけたらいいのではないかと思い、発言させていただきました。

鈴木 保坂委員どうでしょうか。

保坂 確かに私は民生委員をしており、高齢者部会の企画を通して、ケアマネ・ネットさんにはよく交流させていただいています。皆さんと繋がっていかなければ民生委員も何もできないというのはとても強く思っています、そんな思いでこの会議にも参加していました。今回会長の推薦を受けてしまいまして、私は根が断れない性分で、皆さんはなぜあの人がと思われるかもしれませんが、精一杯努力してまいりたいと思いますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

鈴木 ありがとうございます。なお、会議の進行につきましては、今後テーマや圏域を絞って会議を進めたいと考えており、そのために、実際に第2層の動きを支援している第1層生活支援コーディネーターの立場から、八巻委員に進行をお願いしたいと思ひます。八巻委員、お願ひできますでしょうか。

八巻 よろしくお願ひします。

鈴木 よろしくお願ひします。それでは席のご移動をお願ひします。

八巻 それでは、事務局からご紹介があった通り、私が司会進行をさせていただきます。皆さん保坂会長を含めていろいろなご意見が言えるように進行させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。こんな折にお運びいただいて皆さんありがとうございます。体調はくれぐれも気を付けていただきたいと思うのですが、マスクを使っているとマイクが使えないので、マスクをはずさせていただきますので、皆さんもその都度自由に自分がしゃべりやすいように工夫をしていただけたらと思ひますので、よろしくお願ひいたします。早速ですが議題の3生活支援体制整備事業の説明について事務局からお願ひします。

石橋 長寿支援課の石橋と申します。よろしくお願ひします。
資料1生活支援体制整備事業の説明及び第1層協議体の役割の再確認ということでA4の資料になります。まず生活支援体制整備事業に関する説明と協議体の役割について再確認をさせていただきます。資料の上のイメージ図を見てください。皆様

何度もお聞きになっているかと思いますが、団塊の世代が 75 歳以上になる 2025 年を目途に要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるように住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を目指して生活支援体制整備事業の協議体の中で協議を進めてきました。特に生活支援介護予防の地域の仕組みづくりに重点を置いて多様な主体による生活支援の担い手の養成やネットワーク作りが重要になることは皆さんご存じの通りです。下のイラストを見ていただければと思います。こちらは生活支援コーディネーターと第 1 層協議体の関連を示した図です。第 1 層生活支援コーディネーターは市全域を担当して基盤整備を推進コーディネートし、第 2 層生活支援コーディネーターは日常生活圏域ごとに推進コーディネートしていきます。八千代市の場合は、第 2 層コーディネーターは地域包括支援センターに配置しております。地域の団体や人材に声を掛けて第 2 層の協議体を開催しておりますが、2 層の協議体は各圏域 1 ヶ所ではなく、阿蘇圏域は 2 ヶ所八千代台圏域も 2 ヶ所で開催しております。現在市内 9 圏域で協議体を開催しております。裏面に行きまして上の表は生活支援体制整備事業が始まってからこれまでの協議体内容についてまとめさせていただきました。縦軸は年度、平成 27 年度に立ち上げてからを書いており、右側の (1) から (5) についてはこの協議体の要領の第 2 条にこの協議体は何を協議する協議体なのかを書かれています。それを載せています。一つ目が生活支援サービスのニーズ把握と地域資源開発の方針に関する事、二つ目が生活支援サービスの担い手の把握、養成及び連携に関する事、三つ目が生活支援コーディネーターの配置に関する事、こちらは平成 29 年に要綱を改正しまして現在は生活支援コーディネーターの組織的な補完に関する事という表現に変わっています。四つ目は生活支援のネットワークの構築に関する事、五つ目にその他として生活支援体制整備事業に関する事となっています。平成 27 年からどのような協議をして来たかということで、簡単にご説明させていただきます。平成 27 年に生活支援体制整備事業が活動開始した年となりまして、この協議体が設置されました。第 1 層生活支援コーディネーターとして八巻委員が任命されております。平成 28 年には第 1 層コーディネーターを中心として高齢者を対象とした生活支援のニーズ調査を実施しており、協議体ではその検討や報告をしています。ニーズ調査の結果を少しご報告しますと、民生委員さんや地域包括支援センターの職員の協力を得て 568 名の方にアンケートを取り 457 名の回収率 77.9% で回答を得ています。日常生活で不安があると答えた項目の中で一番多かったのは買い物となっていました。続いて医療機関の受診、救急車への連絡、居住内の掃除、調理という結果になっています。同じく平成 28 年には社会資源の把握、情報の整理を協議体で行いました。第 1 層生活支援コーディネーターが介護予防サロンや支会のサロンなど集いの場に焦点を当てて社会資源をまとめたふれあいマップというものを作成しており、その作成や配布に関して協力をしています。このふれあいマップですが、毎年度更新して作成配布をしています。平成 29 年度は勝田台地域をモデル圏域として、第 2 層協議体の活動を開始しました。協議体開催に関する事や第 1 層のコーディネーターが開催する担い手養成講座に関して協議を行いました。平成 30 年度からは第 2 層生活支援コーディネーターが各地域包括支援センターの 6 圏域に配置されました。協議体においては第 2 層の圏域ごとのニーズや地域資源の把握第 2 層協議体

での意見交換の報告などを協議体でしています。その下のスライドに移りますが、生活支援体制整備事業の協議体での役割を今後どのようなところに充てていくか、今後も（１）から（５）に関する事項について協議をするわけですが、第２層協議体で検討した内容については第１層の協議体に報告をしながら、この会議では特に（３）の部分、生活支援コーディネーターの活動の（ここには組織的な補完と書いてありますが）サポート支援をしていただきたいと思います。具体的な例としては、例えばこの協議体での検討内容を持ち帰っていただいて、所属団体の会議で報告していただいたり、逆に皆様の所属団体で把握している社会資源情報を提供していただいたり、当協議体で所属団体の活動報告等をお願いできればと思っております。他に担い手養成講座をやる時は講師としておいでいただくことや、各団体から委員の皆様に限らず他の組織の方にも、所属団体の他のメンバーの方にも、２層の協議体の参加をお願いしたいと思っております。これらの活動を通じて、委員の皆様を通じて各所属団体の他の方々とも連携を図りまして、協議体の委員さん同士のネットワークの構築を今後も推進したいと考えております。会議の進め方としては、実績の報告だけではなく１層及び２層における取り組みの課題について協議していきたいと考えております。以上です。

八巻

ありがとうございました。生活支援体制整備事業平成 27 年から八千代市では開催しており、委員さんの改正ということで今回第 3 期です。当初からやっていた方には何度も何度も繰り返になってしまうかもしれませんが、日々課題は第 2 層のコーディネーターさんが発掘してくださっているようにいろいろ変わって来るかと思えます。その中で確認として今回事務局の方から生活支援体制整備事業の現状と今後の説明をしていただきました。また平成 27 年から変わりなく推進していくものにはなりますので、役割に沿って委員の皆様と進めていければと思いますので、よろしく願いいたします。

山下先生、この時点で何かご意見ありますか。最後に自己紹介で山下先生からお話をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは第 4 の議題に入りたいと思いますが、今申し上げたように委嘱状が交付された関係で新しい委員の皆様もいらっしゃいます。協議体の役割の中でも協議体委員の団体同士のネットワークの構築となっていますので、いよいよ団体同士がネットワークを作りながら、地域の中でできることは何か、今やっていることをさらに推進していくにはどうしたらいいのか、繋がり作りが必要になってくると思います。皆様においてはやっていることや各委員の役割の中でこんな事をやっていますなどのお話をいただければと思いますので、ここで自己紹介の時間を設けたいと思います。ただ第 2 層のコーディネーターにつきましては議題の後、今年度の実績と来年度の計画についてのお話がありますので、自己紹介はその時に一緒にしたいと思います。団体から選出された委員の方は大体 3 分から 5 分でお話をいただければと思います。5 分も要らないと委員長が言っておりますので、では 3 分位でお話しいただければと思います。どちらからいきましょうか。では山崎委員からお願いします。

山崎

千葉県たすけあい協議会から推薦をいただきました。千葉県たすけあい協議会は、令

和元年度は千葉県内の38団体及び協力団体が57団体、合わせて100近くのネットワークが作られています。主に参加している団体は住民参加型在宅福祉サービスの団体、あるいは市の社協から成り立っています。活動の内容としては千葉県の中の京葉ブロック、八千代市があるのは印旛3部ブロックそして東葛ブロックなどです。千葉県を4つに分けてそれぞれのブロックで年に最低でも1回の勉強会、及びここ数年は山下先生をお招きしてコーディネーター研修で事例を用いた研修会を年に1度、あと役員で各ブロックの情報交換と全国の住民参加型在宅福祉サービス団体全国連絡会というのがあります。これは霞が関でたすけあい千葉と千葉県たすけあい協議会の綴りが2枚あると思うのですが、介護保険の始まる前から主に有償無償のボランティアを中心に行っている団体及び社協から成り立っています。その中で年に3回から4回、霞が関で全国住民参加型の幹事会というのがあるのですが、なかなか毎回は出席できませんが、最低でも年に1回は勉強会を兼ねて全国の団体の活躍をお聞きしてそれを県に持ち帰るということをしています。元々これが立ち上がったのが、今さわやか福祉財団にいらっしゃる方が四街道のふきのとうという団体の会長だった時に、全国住民参加型在宅福祉サービスのかかなり上の方の役員をされていて、その情報をもっと千葉県の中でも共有したいということで、住民参加型学び舎法人あるいは社協に声を掛けて、たすけあい協議会というのを作ったそうです。全国的にもたすけあい協議会という組織があるのはほとんどなくて、非常に千葉県はネットワーク作りが上手くいっているということでした。以上です。よろしくお願いします。

犬塚

私はこの隣の福祉センターの八千代市ボランティアセンター運営協議会の犬塚と申します。よろしくお願いいたします。ボランティアセンターには現在60位の団体ボランティアが登録しています。それから個人ボランティアというのに登録していらっしゃる方が689人いらっしゃって、それと支会というのが各地域に設置されていると思いますが、21支会で591名の福祉委員が活動しています。私は高津支会に所属しているのですが、高津地区の高津団地以外の地域の約20近い自治会が含まれる高津地域の支会の福祉委員の1名です。それとこの会に来させていただいているのは、回想法プランニング八千代というグループの代表で運営委員会に出席しています。回想法プランニング八千代というのは、回想法というものを八千代に根付かせたいということで、平成25年に社会福祉協議会が基礎講座で先生を神奈川県からお呼びして開催していただきましたのですが、2年前に5年ぶりにもう一度基礎講座と回想法のリーダー養成講座を行ってくださいました。昨年は基礎講座のみ参加したのですが、そのお陰で現在十数名の会員が活動しております。回想法というのは昔の思い出を話して脳を活性化させて認知症の進行を少しでも予防しようというもので、このようなチラシを置いてあるのですけれども、毎月第1、第3水曜日に活動させていただいております。よろしくお願いいたします。

鈴木（孝）

八千代市介護サービス事業者協議会から参加している鈴木と倉沢です。八千代市介護サービス事業者協議会の内容を簡単に説明しますと、市内の介護サービスの協議会、その通りの名前ですが、八千代市内に介護サービスは細かく分けるといろいろな分け方が

あるのですが、大体 200 以上あります。その中でこの協議会に参加しているのが、一つの会社が 1 つだけではなくて大体 2 つ以上のサービスをやっているところが多いので、その中の 53 の会社が集まった協議会です。会社の数まではわかるのですが、人数となると職員を合わせると 500 人 1000 人位いてもおかしくないようなサービス団体にはなるのですが、主な協議体もしくは介護サービスの内容はやはり介護保険のサービスというのが殆どになっており、実際に要介護状態・要支援状態になられた方への介護サービスが、主な内容になっています。協議体の事業としては事業者間同士の連携を図ったり、研修を行って介護の質を上げたり、日々行っている業務に加え、八千代市と連携してこの協議体もそうですが、例えば初期の認知症対応や医療体制、介護が行われる場合は八千代市から依頼を受けて八千代市の全般の介護・医療に関する会議にも参加しています。あと私の話をしますと、事業者協議会の会社にもいろんな種類の事業所さんがありますが、私が所属しているのは社会福祉法人です。社会福祉法人だけだとなかなか説明が難しいのですが、半分公益的な立場で一般的なものと NPO に近いような立ち位置で事業を運営している法人に勤めておりまして、今私が所属しているのは施設のサービスです。老人ホームに属して日々のサービスを行っています。地域は村上で、第 2 層の方と一緒に中村委員と活動させてもらったり、ちょっと前には島田台で野添委員ともいろいろ行わせていただいたりという状況です。この後は倉沢委員をお願いします。

倉沢

同じく八千代市介護サービス事業者協議会から参加させていただいております倉沢と申します。よろしく申し上げます。前回から引き続いてさせていただいているのですが、今鈴木委員から協議会の説明はあった通りで、包括の皆さんを始め白濱委員のケアマネ・ネットワークと連携しながら日々高齢者の方に介護保険を使つてのサービス提供させていただいている団体から来させていただいております。鈴木委員から施設の説明があった通り、私は在宅介護の方からの参加になります。社会福祉法人とはまた違って、公益性ももちろん大事としているソーシャルとビジネスの両方を取っていくという感覚で私としてはそのどちらも取っていくという立場から参加をしています。課題解決すると同時に永続的に活動していくためにはどうしても資金が必要なのでビジネスという観点が必要であると思っているので、そういった見方から鈴木委員と一緒に自分たちの協議会に活かしながら、ここで共有しながら取り組んでいければいいと思っていますので、よろしく申し上げます。

白濱

名簿の 6 番目の市内で介護支援専門員の業務に従事する者の集まりで、やちよケアマネ・ネットワークで会長をしています白濱と申します。お手元の資料はやちよケアマネ・ネットワークというのがあると思うのですが、見ていただければと思います。やちよケアマネ・ネットワークのホームページを作成中で、公表できるようになった時にはもっと大々的に公表していこうと思っています。ケアマネジャーは何をしている仕事かと皆さんは思うかもしれませんが、主に要介護者の介護計画、先程倉沢委員や鈴木委員がやっている事業者、ヘルパーさん等を使うのは、本来自分でケアプランを作って利用することもできるのですが、それだと大変ですし、いろいろ公正中立な部分というところから外れてしまうということで、ケアマネジャーという資格を持っている者が、その

ケアプラン・目標とかを作ってどうしていけばいいかという提案して、相談に乗るのが我々ケアマネジャーの仕事になります。ケアマネジャーは一人でも事業所を立ち上げることができるのですね。サービス事業者協議会の皆さんの事業所は一人で立ち上げられることはまずないと思うのですが、ただ大前提として会社法人もしくはNPOなどは法人格を持っていないといけないというのがあるので、私も会社法人がやっているところのケアマネジャーなのです。そうするとその法人は事業者協議会に登録してあったりするので、ちょっとその辺の密接な関係には八千代市介護サービス事業者協議会の皆さんとは重なっている部分も多いのです。ただ先程お伝えしたようにケアマネジャーは公正中立でなければならないのが、初代のケアマネジャーの役員の方々の意志もありますので20年引き継いでいる中で、公正中立ということで別組織であった方がいいでしょうし、行政もそこには入っていない状態がいいだろうということで、本当に唯一ケアマネジャーの職業団体として八千代市で活動しています。ちなみに事業者協議会の事業所加入率が6割くらいに対して、ケアマネ・ネットワークの八千代市でケアマネジャーやっている方の加入率は8割くらいはいると思うのでそこは自慢です。実は山崎委員もそこにいらっしゃる関根委員も包括の方もケアマネジャーの資格を持っている方は皆さん会員だったりするので、私がおこにいる必要がないのではないかと思います。

ケアマネジャーは介護保険の要介護度が出ている方の支援を行うことが中心になっているので、協議体に出ている時からずっと悩みのところでなかなか答えが出てこないのですが、介護予防ということに従事していく地域ケア包括システムの構築や、今ここには出ていないのですが、今後出て来る地域共生社会の部分です。お子様から障害者・高齢者全部を入れていくというところで、我々ケアマネジャーがどういった協力ができるのか、どういった協力をしていかなければいけないのかを会員にどう伝えていけばいいのか悩みながら参加しています。よろしくお願いします。

薄井

名簿で言うと7番になります。薄井と申します。社会福祉協議会の勝田台支会の会長をやっております。また21の支会の会長さんが集まって3か月に1回支会の会長連合会の会議をこちらの社会福祉協議会の会議室でやっています。今話題のテーマといいますと、皆さんご存じの通り昨年の暮れに地域懇談会を開催し、地域の方はどなたでも来てくださいということでのいろいろな地域で困っていることや言いにくい部分など良い部分も含めて全てを出していただいて、それをまとめた結果が先日2月14日の会議の中で担当者から報告がありました。その結果八千代市というのは北から南まで細長い形になっており、新しい町も古い町もあります。それぞれの課題や文化をすごく感じております。そういう中で先日の連合会の中ではそれぞれ課題について来年令和2年度のテーマの中には課題を一つでも取り上げて進めていただきたいという要望を出したところでございます。これから3か月に1回の会合の中でどんな展開をしてくれているのか、非常に楽しみにしています。そんな活動をしておりますので今後ともよろしくお願いいたします。

中台

皆さんこんにちは。大和田新田上区で支会の会長をしております中台と申します。先程薄井委員が支会のことを言っていました、いつの間にか薄井委員が会長、私が副会

長になっておりまして、支会から参加させていただいています。うちの支会は 21 支会ひとつであります。皆さんと同じ仕事をしてはいますが、ただ一つだけ皆さんと違うことをしております。それは皆さんご存じかと思いますが、もしも聞いたことがあればこれからも賛同していただきたいと思うのですが、八千代市で災害時に個人で避難できない人は手を上げてくれと要望を出したのですが、うちの町会には 25 名おりまして、聞きますと災害時に誰が助けに来てくれるのかと、市役所に問い合わせても返事がない。それはおかしいのではないかといろいろ調べたところ、やはり長寿支援課ですか、そこでもいざという時に助けに行く人はいないというのですよ。それでうちの支会と、自治会で会長をしていますので、何とかしようということでたまたまうちの町会内に 8 つのデイサービスがあります。今日介護サービス事業者の方がいらっしゃっていますのでまた協力していただきたいと思っておりますが、その中でせつかくあるのだからこの介護サービスの方をお願いして民生委員共々 1 週間でいいから災害時に自分で避難所に行けないお年寄りを預かってくれないかと。それを何とかしようということで今お願いいたしました 4 つの事務所で OK をいただきました。その一番最初が平成 25 年で立ちまして昨年度やっと 3 件 OK をもらいました。その中の 2 つは子どもたちを預かってくれるところを見つけました。ただの保育園ではなくて障害を持った子どもたちを預かってくれるということで、そこと災害時にボランティア協定を作りまして、ただこれにはたくさんのハードルがございまして、やはりお年寄りを預かるということはデイサービスの方も当然介護するには当然お金がかかるのです。計算してみましたら大体 1 日 7000 円くらいかかる、たまたまうちの町会では災害時に掛けるお金ということで積み立てておりましたので、数百万の災害時予算がありましたので、そこに充てようということで何とかそのハードルはクリアいたしました。一番はその業者さんがいいですよと言ってもらえなければ何もならないのです。今日この場で介護の方が結構おられますのでもし地域でこういう案がありましたら、是非ご協力のほどよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

吉垣

こんにちは。名簿の 9 番目です。21 支会のひとつである八千代台東支会です。隣は千葉市、南は習志野市で八千代の外れなのですが、八千代台は開発されてもう 60 年以上経ちますので、超高齢化が市内でも No1, No2 に入るのではないかとされるくらいです。高齢者もだんだんケアマネさんの世話になっている関係上人口も減っています。東地区もかなり減っていますが、我々支会でやっている仕事で乳飲み子からという月 1 回保育園とコラボして地域子育て支援という活動をしています。その中には産まれてひと月経たないうちからベビーカーに乗せてお母さんが見えになっています。東地区は自治会の加入率が極端に低いです。その極端に低い中で町会に入会されていない方をいかにフォローするか、頭をいつも悩ませています。

近々 4 月にお祭りをやる予定でいたのですが、3 月 3 日に全体会議がありその席で私の方から中止の発表をせざるを得ないと思います。残念ですがそのような社会情勢になっていますので、東地区支会で一番メインの春祭りを中止せざるを得ないという結果になっています。また今後ともお世話になると思いますのでよろしくお願いいたします。

鈴木（亜）

八千代市社会福祉協議会ボランティアセンターから参りました鈴木亜矢子と申します。よろしくお願いいたします。私は有償ボランティア「ゆいのわ八千代」のコーディネーターもしています。市内のこの「ゆいのわ」のご説明させていただきたいのですが、平成31年度/令和元年度の相談件数なのですが、この全部が解決できたわけではないのですが、数えましたら全部で61件ございました。主な内容としましてはゴミ捨てや日常生活の買い物支援、あとは戸建ての家ですと庭木の剪定や草取りをお願いしたいという依頼が多く、これも地区によって偏りが出てしまうのですが、隣にいる吉垣委員にもサポーター登録をしていただいで活躍していただいでいるのですが、主に八千代台地区と米本団地内にて本当に多くのご依頼を受けております。

サポーターさんという支援する側の人数なのですが、全部で現在83名とあと八千代市内でSNSをやっていますピアツツアというものがあるのですが、比較的若い世代の子育て世代のママさんたちが登録しています。そちらを入れると100名近いサポーターさん支援者がいるのですが、これに対して利用される方は全部で今現在126名登録されています。こちらは1回限りの方もいますし、リピーターで何度も何度もご利用されている方もいます。私の中で数えてみたのですが、「ゆいのわ」は2017年から始まって、2017年に利用申請された方が18名、その翌年2018年には47名、2019年には61名、年々増えています。しかし先程申し上げましたように、やはり「ゆいのわ」の存在はまだ市内で知れ渡っていないと感じていますので、私の使命としては「ゆいのわ」の存在を八千代市内に知っていただくことが重要ではないかと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

伊藤

私が一番古いのだと思います。第1期からずっといるおばあさんでございます。シルバー人材センターでは高齢化が進む現在では一人でも多くの人に会員になっていただいで体を動かすことによって老化を防ぎ、人と話すことによって脳の活性化を促すことができますということで、会員の拡大のPRのチラシを配ったりして、社会福祉に貢献できたらいいなと考えています。今理事や役員も新しくなっていますので、話し合いをしながら皆様と一緒に社会福祉協議会と協力しながら、前向きに一生懸命頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

保坂

名簿の3番の民生委員・児童委員協議会から来ました保坂恭子と申します。本日は民生委員を御存じですかというPR誌を配らせていただきました。後ろを見ていただくと、八千代市の民生委員は219名云々と書いてありますが、実はこの12月に改選があり民生委員の3分の1が代わり、現在の正確な人数は226名です。欠員は3名です。その内主任児童委員ですが、20名が1名増員になり21名となっています。この226名に増えたというのは地区によっては、例えば私は八千代台で私の地区は対象なのですが、高齢者が急に増え、民生委員の1人の持つ担当を2人にするとか、そういう部分で増員され現在226名、欠員が3名ということです。3地区だけは他の民生委員と一緒に見ている状態で、空白があるのですが、226名で現在動いています。主任児童委員さんが通常ですと一つの地区に2人なのですが、今回から1か所だけ3名になりました。それは大和田新田地区です。大和田新田地区は緑が丘にすごく住宅が増え、緑が丘の地域の学

校数が増えて、主任児童委員が2人ではとても手に負えないということで3名になりました。先程吉垣委員が八千代台東も高齢化とおっしゃっていましたが、私は八千代台西なのですが、隣の森田委員に聞いたら高齢化率が30%を超えたと言われ、非常に高齢者が多いなと思っています。逆に緑が丘のように若い方が増えて学校も増え主任児童委員までも増えるという、同じ八千代市にあっても全然違うのだと思いました。

民生委員は何をしているかというのはなかなか理解していただけないのかなと思って、こういうPR誌作ってみました。中を開けて見ていただくと、わかりやすく作ったつもりなのですが、私たちは間を繋ぐ橋渡しという立場だと思っています。

民生委員が何でも解決できるわけではありません。大昔の民生委員の方はその地区の有名な方や実力者の方がやっていました。困ったことがあればその方が解決してくれたり、お金を出してくれたり、そういう時代を経て来ていると思うのですが、現在の民生委員はそんな力は全然無くて、皆さんと同じ地域から代表として出ているだけなので橋渡しを心がけています。間を繋ぐ橋渡しということで、民生委員は何が必要かという、民生委員自身もネットワークが必要で、こんなことを言われたら誰にこのことを相談するか、そういった知恵を持っていないと民生委員も務まらないかと思っています。地区の民生委員も3分の1入れ替わってしまい、もしかしてなかなかうまく回れないで皆様にご迷惑をかけているかもしれませんが、基本的には一生懸命やろう、まじめにやろう、誰かの役に立ちたいと思っている者が大勢いますので、どうぞ今後とも民生委員、児童委員をよろしく願いしたいと思っています。よろしく願いいたします。

山下

淑徳大学の山下と申します。この生活支援体制整備事業が各自治体で始まって以来、いくつか自治体でこうした場に招いていただいて勉強をさせていただいています。八千代市は私の住んだ実家もありますので場が求められていると思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

八巻

皆さん自己紹介ありがとうございました。初めて聞くような内容もあったと思います。1層の協議体はこれの中で繋がることよりも、会議が終わった後に思ったことが繋がっていく、これとこれがもしかして繋がったらいいのではないかとこのところを聞いていただくことや、先程の中台委員の災害パートナーシップ協定は事業所と独自に繋がれているところはずごく画期的なのではないかと思っていますので、そういったところもぜひ会議の中だけではなく、その後にも繋がりを持っていただければいいと思いますのでよろしく願いいたします。

それでは議題の5に進ませていただきたいと思います。各生活支援コーディネーターの活動報告及び次年度の計画についてです。皆様のお手元の資料には生活支援コーディネーターの活動報告2019と補足として2層の生活支援コーディネーターさんが資料を持ってきていると思います。自己紹介も兼ねながら各圏域で今年度活動報告と来年度の活動の重点目標をお願いしたいと思います。2層の生活支援コーディネーターさんよろしく願いいたします。

まず初めに生活支援コーディネーター活動報告ですが、2枚目に1層生活支援コーディネーター活動報告を入れました。これは私が報告をさせていただきます。第1層の生

活支援コーディネーターの事業報告は大まかに3点行いました。第1・第2層コーディネーターの情報交換の場作りということで、2ヶ月に1回情報共有の場を設けて意見交換を行いました。昨年度までは無かった取り組みだったので、各圏域がどのように進んでいるか、どうしたらいいのかということ話し合う場になったと思います。来年度に向けてはお互いのいい所を持ち寄りながら、お互いに助言をしていける場にしていきたいです。来年度も引き続き取り組んでいきたい活動です。担い手養成講座の開催は長寿会参加の講座には2層のコーディネーターさんと1層の委員さん、特に鈴木委員と倉沢委員には参加していただきありがとうございました。長寿会の皆さんにも新たに自分たちも担い手なのだということに気付いていただけた場になったと実感しています。来年度は長寿会が支会さんと同じように各地域に点在していますので、そこで担い手養成講座のPRができれば生活支援体制整備事業が広まっていくのではないかと思います。もう一つ市内全域対象に開催したのは、1月に山下先生にお越しいただいて、市内全域の事業の進め方や家族の支え合いはどうか、死ぬ時はどこにいたいのかというお話をさせていただきました。支え合い事業がまだまだ自分には関係ないかと思っていた方たちが自分はどうするのか考える機会にはなったのではないかと実感しました。また来年度も市内全域に向けて出張講演ということで、今こういことが進んでいるというお話をしていければと思います。各圏域の第2層の生活支援コーディネーターさんと協力して圏域内における担い手養成講座や協議体の開催に向け微力ながらご協力をさせていただきました。そちらにつきましては2層のコーディネーターさんが実感していることや困っていることがあると思いますので、この後の報告でお話していただければと思っています。活動報告については皆さんが発表した後に、ご質問ご意見を伺いたいと思います。また最後に山下先生にもお話をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは2層のコーディネーターさんからの報告を、村上圏域からお願いします。

中村

村上圏域の第2層生活支援コーディネーターをしています村上地域包括支援センターの中村です。よろしくお願いいたします。

今年度の村上圏域の活動内容ですが、八巻委員がまとめてくださった「生活支援コーディネーターの活動報告」と、私が持参しました「担い手養成講座を実施して」というものと、「村上つながるマップ」で説明をしたいと思います。村上で今年度やったことは資料にありますようにマップの作成配布と協議体の開催と担い手養成講座の開催がメインになります。まずマップの作成配布ですが、ここにある「村上つながるマップ」を作成しました。昨年度地域の社会資源を調査していた中で、運動する場所はあるけれどそれ以外で皆さんが集まってお話ができる場所がなかなか少ないということでした。そういったことを纏めた上で、そこから担い手養成講座を実施すればいいのではないかとということになり開催をしました。担い手養成講座についてはこちらに資料がありますが、これは10月の第2層協議体会議の資料を抜粋したものを持ってきました。このつながるマップをもとに集まる場所がないということで担い手養成講座も居場所作りに特化した担い手養成講座を開催するというので進めました。居場所作り担い手養成講座は提示をして興味のある方に集まっていただくということを目的にして、村上団地を

拠点としてポスターの掲示と一か所だけ体操グループに直接勧誘に行っています。一つ体操グループに行ったところは実は前年度から声を掛けさせていただいて、その責任者さんがサロンの立ち上げを考えていたので直接行きました。公募とそのグループの方で合わせて合計 18 名集まっていたいただいています。資料に写真もありますが、日程も 4 日間のコースをやりまして、村上団地内の特別養護老人ホーム「むらかみの郷」を会場にさせていただいて開催しました。「むらかみの郷」さんでの開催を決めたのは地域交流の場所もあり、こちらの意図としてはそこでグループの立ち上げがあればという希望もありました。成果は 4 日間やって、4 日目にグループワークを 3 つのグループに分かれてやっていただきました。その 3 つのグループは立ち上げることになり、成果を上げることができました。その後は村上団地で立ち上がったところは、私が希望していた「むらかみの郷」さんで一つ。もう一つは集会所で現在も活動しています。集会所での活動はかなり本格的で市のサロンにも登録をして、いろんな方を招いたり、スタッフで何かをしたりして、毎週水曜日（今はコロナで中止ですが）に活動しています。「むらかみの郷」さんで行っているのは「セブン会」というもので、名前にちなんで毎月一回 7 日に開催するというので、こじんまりした活動をされています。もう一つの体操グループですが、実際やるということにはなったのですが、体操グループからもう一つサロンということになると、それぞれ意見があるようで、新たにサロンという活動ではなく、体操グループの中で食事会をするなどの活動でとどまっています。そのあたりはまた別の形で支援ができるように、何か時間を持って皆さんがしゃべれる場所になれるような支援していきたいと思っています。今年度の活動の報告は以上です。

課題は次のページにありますように、2 層協議体で出たものや今年度も 2 回行った村上圏域の個別の地域ケア会議の中から出てきたものです。ここから一つ絞って 2 層協議体で話し合うということはまだできませんでした。やはり先程から出ている災害については必ず話題に出てきています。

来年度についてですが、先程のゆいのわさんに来た困りごとのごみ問題のようなことは、村上ではまだ出てきていませんが、ゴミ捨てが大変だという話題は出ています。来年度はそういったことを支援できるグループを立ち上げて、生活支援の担い手養成講座をできるように計画を立てたいと思います。

また、秀明大学さんと UR さんと村上包括と市にも入っていただいて、去年から何か村上団地でできないかという話がありました。今回 12 月に、担い手養成講座で立ち上がったサロンに秀明大学の先生が来て「クリスマス会」を開くことができました。来年度は、折角秀明大学の先生や UR さんが協力してくださるので、村上団地にポイントを絞って、担い手の養成や集まる場所の充実などに力を入れたいと思います。以上です。

八巻

丁寧な説明をありがとうございました。では勝田台圏域お願いします。

庄田

勝田台地域包括支援センターで第 2 層コーディネーターをしています庄田と申します。よろしくをお願いします。

勝田台圏域は八巻委員がまとめてくださった資料と前回の 2 層協議体で 1 年の振り返りをした資料で説明します。勝田台地区は平成 29 年度モデル地区として他の地区のコ

コーディネーターさんよりより一歩早くやっていますが、「認知症になっても安心して生活ができるわが街 勝田台」というテーマをもとに地域づくりについて2層の地域の皆さんとずっと一緒に話し合いを続けてきています。今年度はテーマを決めるということで、資料の中の「認知症サポーター」＝認知症の理解を深めて地域で自分ができることをしていただく。講習を受けた認知症サポーター(オレンジ色のリングを持った方)と何か一緒にできないかということで活動をしています。資料の写真にありますように勝田台地区の認知症サポーターの方をお呼びして交流会をして、地域のことを考えたり、認知症の方の対応について考えたりということで、声を拾いました。またその後に参加された方に地域で何かのお手伝いや地域づくりに興味はないかということで、再度お声掛けをして、希望のあった方に対して支え合いについて考えるような講習をさせていただきました。またその方たちに勝田台地区にある社会資源サロンや有償ボランティアの団体に紹介して、何人かの方たちには興味を持っていただき見学や話を聞いてもらい、繋ぐことができたかと思えます。

また、勝田台地区にある社会資源の確認と、新しくできたもののお手伝いや包括が公園で行う体操など新しい社会資源を進めています。いろんな方の声を聞きながら今あるものを大事にしています。

課題としては前回の2層の協議体で出たことですが、担い手の高齢化や若い世代をどうやって巻き込んでいくかという意見が出ました。また、勝田台の街路樹の掃除が大変だという声が上がっています。そういったいろんな声に対して次年度は2層の協議体の中でどうしていくかを決めていきたいと思えます。

2層の協議体が29年度から3年続いていますので、新たなメンバーに入ってもらい協議ができたらいと思えます。どういった方に委員として参加してもらうかを話し合い、来年度は課題とテーマを持ってできるようにと考えています。以上です。

八巻

ありがとうございました。続いて大和田圏域お願いします。

石橋

大和田地区の第2層のコーディネーターの石橋と申します。よろしく申し上げます。大和田圏域の資料は八巻委員が作って下さった資料になります。大和田圏域の第2層の協議体は1回目を7月に行い、その内容は今年度の第1回の会議で報告していますが、資料の写真にもあるように参加者にグループワークをしてもらいました。自分や自分の周りの人の今の心配事と10年後の心配事を書いてもらい、今の解決方法と10年後に望む解決方法についてグループワークを行い、意見交換をしました。

大和田圏域は介護予防サロンや支会のサロンを運営している方に声を掛けて協議体を開催しているので、1回目の協議体の後に、実際にサロンに参加している方の困り事について聞くためにサロンに出向き、参加者の声を聞きました。

また、2層の協議体に参加している人同士の繋がりを作ろうということで、お互いのサロンを見学しあったり、何か所か回ったりして既存の団体同士が繋がるようにしました。社会資源の情報の整理がまだ途中でまとまっていません。今年度2回目を3月末に開催予定です。

2枚目の大和田圏域の課題としては、団体同士の繋がりが少ない、情報が多く発信さ

れているが必要な方やキーパーソンに届くことが少ないということで、まずは協議体の場を設けて関係者の顔の見える関係作りをして、地域資源の情報を整理した後に参加者の皆さんとまとめて、どう配っていくかを今後検討していきたいと思っています。以上です。

八巻 ありがとうございます。では高津・緑が丘圏域お願いします。

関根 高津・緑が丘地域包括支援センターの関根です。よろしく申し上げます。今までセンター長の岡部が主として活動していましたが、今後は2人で分担して活動していきます。八巻委員が作ってくれた資料でお話をしていきたいと思います。

高津・緑が丘圏域の2層の協議体の中での意見としては、写真にもあるように高津団地は緑も多く、住民の愛着がある。意外に買い物をするイオンやトライアルやタイヨーなどスーパーが多い。特に印象的だったのが、参加していただいた郵便局の局長さんが船橋や習志野と回られた方だったのですが、高津団地の方は優しく、丁寧に対応してくれると言っていました。また支会の会長さんがイオンの無料の送迎バスのルートを団地内も回るよう直接店舗に交渉して実現したということで、私たちも見習わなければいけないと思いました。

課題としては団地も高齢化していてよく上がる声としては、買い物に行けない方の移送サービス、ゴミ出しです。一人暮らしの方、特に男性の方は孤立化が進んでいるのが現状です。

9月の台風15号で高津団地も3~4日位停電になったのですが、避難する場所がないと痛感しました。その時は地域包括支援センターに避難してもらったのですが、今後は団地の空き店舗や集会所を有効活用できるように、来年度は取り組んでいきたいと思っています。

担い手の課題ですが、現在活動している担い手の方も高齢化してきて、次の方に引き継ぎたくても、なかなか若手に移行できないのが現状です。今後は若い方特に男性の方の発掘をできればと思っています。以上です。

八巻 ありがとうございます。八千代台圏域お願いします。

森田 八千代台圏域の第2層のコーディネーターをしています八千代台地域包括支援センターの森田と申します。よろしくお願ひいたします。

八巻委員が用意してくださった資料と平成31年度令和元年度生活支援体制整備事業の報告と「やっち」の厚紙の資料で説明していきたいと思っています。

八千代台圏域は今年度の第2層の協議体は2回行いました。まず「やっち」の説明をします。これは昨年度の2層協議体で作ったものです。八千代台の西北地区の民児協さんと八千代台包括が委託をしているケアマネジャーさんと共同で双方の連携のツールとして使えるように作成しました。皆さんに活用してもらい、今年度は増刷しました。改定ポイントなども書いてあるので見ていただければと思います。今回民生委員さんの改選もありましたので、今後の運用については民児協さんとケアマネジャーさんとの5

月の交流会がありますので、皆さんに相談していきたいと思います。今日実際にお配りしているのは「やっち」の面の左上に穴をあけて糸を通して引っ掛けるようにして、玄関先に「やっち」の面を表にして（裏面は個人情報が入るので）下さいということで、八千代台の西北地区の65歳以上の独居の方や65歳以上の世帯の方を対象に置かせていただいております。

今年度の第2層の協議体の第1回目ですが、西北地区の皆さんにご協力いただいて開催しました。西北地区の困りごととは何か、いい所もたくさんあるけれど実際大変なところはどんなところかを話し合いました。先程の「やっち」の担当者連絡表のこと、ゴミ出しのこと、自治会の加入者の減少のこと、男性の参加者を増やすにはどうしたらいいか、など意見が出ました。この時にももちろん男性の方にも声がけをしたのですが、都合が悪く参加していただけなかったため、女性だけで話し合いをしました。次回は男性の方を一人につき一人くらい連れてくるような勢いで男性の方に参加していただき意見をいただこうと思います。

協議体のメンバーはどちらかという支える側だと思うのですが、困っている方の意見をどう吸い上げていこうかという課題があります。これは今後も地域に出て皆さんの意見を聞きに行こうと思っています。

2回目の協議体はつい先日行いました。八千代台の東西南北に声がけして、「社会資源マップ作成に向けて」ということで開催しました。今現在、市や社協さんから出ているマップではなく、八千代台独自の八千代台らしいものができればと思っています。まだまだ作成途中なのですが、皆さんの意見をいただいたところです。やはりみんなが集まれる場所がわかるもの、自治会や町会と繋がりがどんどん作っていけるといいという声をいただいています。今回の協議体は初めてデイサービスさんや今までなかなか声がけできなかった自治会の会長さんにも来ていただいて、お話ができました。今までお顔はわかって何をしているかはわからなかった方たちから学ぶことができました。今後も交流の中から勉強させていただきたいと思います。

八千代台圏域の課題ですが、八巻委員が作ってくれた資料から、交通の不便さについて、八千代台は京成の駅がありバスの本数も多く便利だと思われがちですが、不便な場所はバスの本数も少なかったり、急な坂があったりして駅に出るのはなかなか大変です。また他の地域でもお話があったように、担い手の高齢化で若い人のマッチングや男性の参加も進めていきたいと思います。あとは買い物難民や自治体離れという話がありました。今回は西北地区で八千代台全域の方を対象に開催しましたが、今度はぜひ東南地区で開催したいと考えています。西北地区では男性の参加がなかったのですが、東南地区は吉垣委員やサロンの担い手の方からも意見をいただきたいと思います。

課題がありすぎてどこに焦点を定めていいのかわからない迷走中なのですが、来年度も頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。以上です。

八巻

ありがとうございました。では最後に阿蘇・睦圏域の野添委員をお願いします。

野添

阿蘇・睦地域包括支援センターの第2層生活支援コーディネーターを担当しています野添と申します。よろしくお願いいたします。八巻委員が作ってくれた資料の中の阿蘇

圏域を見てください。阿蘇圏域の中に3つの支会があって、2地区で第2層の協議体を行っています。一番取り組みが進んでいるところでは米本団地が挙げられます。朝カフェで孤独死を防ぎたいということで男性が男性を見守るという傾向が出てきました。こちらで主催しているラジオ体操でも男性の方が心配だということ、センターに相談があり、少しずつ効果が上がっております。

また「ゆいのお八千代米本」は有償ボランティアとしてかなり重症の方でも病気がちの方でも対応して、心強く活動していただいています。

見守りという点と介護予防・認知症予防の必要性から介護予防教室と一緒に、団地の方は歩かないと歩けなくなってしまうため、メディカルウォーキングという栄養や運動（歩くことをメインにした）の教室を開催し、団地の中にある遊歩道をウォーキングコースとして、歩きたい時に歩いていただくように住民の方に少しずつお知らせをしています。また日頃から歩いていただくために社協・薬局・URボランティアの方々の協力をいただきながらスタンプラリーを開催しました。スタンプラリーはポイント制にして農業交流センターからの野菜がもらえる特典や薬局で予防・健康チェックをしてもらう特典がもらえるようにしています。また防災の面からも話し合いに参加して、地域関係の方々から見守りについて話し合っていますが、今後も介護予防と認知症予防と合わせていろいろな取り組みを考えていきたいと思っています。

それから阿蘇南部地区は米本団地の隣の一軒家の地帯ですが、高齢化率は50%になっています。皆さんは住んでから50年経ち一斉に年を取ってきていますが、できるだけ元気でこのままいきいきと生活をしたいというテーマを上げています。今ここの支え合いの中に有償ボランティアが必要かどうかのアンケートを全戸に配布しています。まだ結果は出ていないのですが、これを基に次の協議体で支えが必要なのかどうかを皆さんと話し合いたいと思います。

また秀明大学の看護学部の先生に介護予防教室をやっている方々へ健康講座をやっただけということに繋がりが始まっています。健康ノートでチェックをしながら定期的に講座を開催したいということで取り組んでいます。

阿蘇北部地区はまだ協議体に上がってきていないのですが、今年度はぜひ取り組んでいきたいと思っています。

睦圏域では担い手養成講座をして、まだまだ地域にコミュニティが少ないためサロン化をしました。その結果2か所のサロンが立ち上がりました。介護予防教室とサロンを組み合わせたかたちが発信となっていて、行事では資料の写真にあるように皆さんに作品を作っていただいたり、それを住民の方に見ていただいたりして活動が広がっています。また睦地域では何度か事例検討をしながら協議体の会議を進めていきましたが、まだ若い世代がいるということもあってなかなか課題と取り組みが繋がらないということがあり、そんな中センターにゴミ出しに困るとか買い物に足が必要だといった課題が上がってきて、これを基に来年度の協議体の会議の中でメンバーを見直ししながら検討していきたいと思っています。今年度最後にセンターの相談に上がってきた中から、お嫁さんや娘さんたちが担い手になる方たちの担い手養成講座の計画があったのですが、コロナ感染症のために延期になりました。ぜひ若い方たちの担い手養成講座を来年度は開催していきたいと思っています。以上です。

八巻 ありがとうございます。全体の説明を一通りさせていただきましたので、皆さんから補足や各団体として今の話の中で次年度の参考になるなどのご意見があれば出してください。また今は次年度の計画を2層のコーディネーターさんたちは立てる時期ですので、ぜひご意見ご質問をいただきたいと思います。

伊藤 民生委員という立場で、一人暮らしの高齢男性が家事をしていて火事が起きたら困るからと、近所の方から民生委員である私に言ってほしいと依頼があった。その方は耳が遠いので電話しても出ない、ラジオの音がしてもダメ、インターフォンを押してもダメ、ドアを蹴飛ばしてもダメ、部屋の窓を叩いてもダメ。そういう状態で何ができるのか。村上包括さんに相談して行ってもらったところ、その人に息子が一人いたのが分かった。その息子は2年くらい帰って来なかった。近所の皆さんは息子さんの存在も知らなかった。息子さんが帰って来たので長寿支援課に行ったところ、同居の息子さんが住民票に載っているの、火災報知器や一人暮らしの通報システムの利用はできないと言われた。

また民生委員の定例会で出た高齢者の見守りを廃止されたという方の件。その方の長男さんが離婚した時に、一人暮らしのお母さんを心配して県外から八千代市に住民票だけに移したため、同居家族がいるため災害時の要支援者から外されてしまった。助けに行けないことを事情説明したけれどもダメだった。そういう時は長寿支援課に言っても、住民票に載っているのだからダメといわれた。そういう時はどこに言えばいいのですか。

八巻 伊藤委員ご質問ありがとうございます。今のお話は実際に一人暮らしでも住民票上は同居人がいることになっている場合、今の時点ではどうしようもないのだけれど本当はどこかに行けば解決できるかという質問でいいですか。今事務局が答えることができることはありますか。

若林 地域包括支援センターの若林と申します。一人暮らし高齢者のサービスの所掌をさせていただいているのですが、あとで個別に対応させていただこうと思います。

中台 上区支会で取り込んでいる事業の一つなのですが、もし家族と離れていて一人でどこへも避難できない場合に、市で手を上げてくれと言っている事業に登録してもらえそうですか。そういう方法もありますよね。我々の場合は民生委員と連絡を取り、絶えず回ってもらっています。避難場所も決めてあります。

八巻 今の中台会長の質問は要援護者の登録の件ということでよろしいですか。

中台 はい、そうです。

八巻 そのような対応でどうですかということですが、事務局はどうですか。

若林 サービスを使う時は基本住民票を基にするのですが、別居していることが確実にわかる証明があればということが1点と、避難行動要支援者は手挙げ制度になっていますのでその事情をいただければ登録することは可能だと、中台委員が言われていることだと

思います。緊急通報の部分と避難時は分けて対応は柔軟にできると思います。

八巻 ありがとうございます。今のように伊藤委員が言われたことは日常にあることだと思うので、包括にも繋がってもらい長寿支援課にもう一度丁寧にお話をさせていただいて、どう解決したかを報告していただけると今後に活かせると思います。中台委員や事務局の話のように一つの事業では支えられなくても他の事業では支えられるという場合があると思うので、協議体の会議を待たずに日々の質問の中で対応していただくと、より解決につながるかと思います。ありがとうございます。

伊藤 今度はシルバーの立場で、女性の会員が72名いるのですが草取りや家事労働・お使い・散歩の依頼が少しずつ入って来ています。社会福祉協議会さんと協力しながら一緒にやっていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

八巻 心強く思います。他に皆さんいかがですか。白濱委員いかがですか。

白濱 介護保険は施行されてから結構経っていますよね。でもそれぞれの地域の課題に介護保険制度の周知がまだ出るのだというのが、率直な感想です。もうそういう時代は終わっているのかと思っていました。これがそれぞれの地域課題として対応するものなのか、行政としての周知不足もあるのではとも考えています。それだけではなく八千代市には今居宅介護支援事業所は50か所位あり、デイサービスの数は歯科医院の数以上にあると思いますが、そんなに増えている八千代市の中でまだ介護保険のことが周知されていないと思います。聞ける場はあるが聞きに来ないのか発信が足りないのか、そういうところでケアマネジャーも何か協力できないものかと感じています。地域課題としてゴミ出しと移送の支援は第2層だけではなくいろんな集まりで出てきています。こういう話題で盛り上がっているのですら八千代市全体として答えを出さないと、「言っても変わらない」と言われる時期が来ているのではないかと思います。

ケアマネジャーをやっていて以前はなかった皆さんの頑張りだと思うことですが、新規の相談に行くと介護保険をサロンやサークルで知ったという利用者さんやその家族の方がいることが最近多くなってきています。今まではそういうのが無かったので、「これから介護保険使いましょう」「デイサービスに行きましょう」というなかなか支援に繋がらなかったことが、皆さんがやっている介護予防や地域の繋がりや交流の場の支援で地を作って、交流の抵抗感を少しずつ和らげていただいていると思います。デイサービスの提案も皆さん前向きに考えていただけるので、繋がりの部分でかなり皆さんのお力を感じています。以上です。

八巻 ありがとうございます。今白濱委員から出た介護保険のまだ質問が出るというのは多分事業者さんとしてのご意見だと思うのですが、地域としていかがですか。民生委員の立場もあるので保坂委員をお願いします。

保坂 やはり思っている以上に周知されていないと思います。介護保険があるというのはわ

かっているけれども、本当に質問はよく受けます。何を聞かれるかというとそれぞれ違います。「今申請しているけれども要介護度はどうやって決まるのか」という細かいことや、「何ができるのか」と聞かれますので、高齢者福祉などのガイドや市から出ているパンフレットをお見せしながらお話しします。包括にどんな質問を受けているかを報告します。

最近気づかされたのは、「しおりをもらって電話で包括に話を聞いたけれど、実はよくわからない」「介護保険の存在はわかっているが内容はよくわからない」「腰が痛いから使いたい」と言っているケースが多いです。包括が手伝ってくれるので申請は割と早くできるが、離れている家族がもう申請してほしいと言っている場合、申請までは何とか辿り着いても実際のサービスはというとなかなか結び付かず、特に要支援の方は本当に苦労していると感じます。要介護度が上がって出ればケアマネジャーがついてくるのでその方にあったサービスがうまく繋がってくると思うのですが、要支援1,2だとご本人ができる部分があるので、ご本人が思っていることとうまくマッチングできなくてどうすればいいかと考えてしまいます。私たちが思っているほど納得いくようには伝わっていないと思います。それだけいろんな分野でいろんなニーズがあっという間に対応できないと思いました。

八巻 ありがとうございます。先程のゴミ出しや移送の問題がいろんなところから出ていることについては皆さん感じていますか。支会の会議でも何か困っているなど出ますか。吉垣委員はどうですか。

吉垣 東地区にはゴミ出しの問題はあります。但し支会でやっつけいいのかの判断に迷います。ユーアイやちよさんの有償ボランティアが「1回ゴミ出しごとに250円」があるので、それを利用されることを提案しています。

中台 介護保険のことが出ましたが、町会長を長くやっていますので実際に相談を受けます。「うちの隣のおばさんはかなり体が不自由なのだけれど、どこに相談すればいいのか」「一人でどこにも出かけられない、どうすればいいのか」私の母は長生きをしたのでいろいろ覚えちゃったので、「包括に連絡して指導を受けてください」「包括はどこにあるのですか」それさえわからないのです。その場合は支会の方やその地域の班長さんに相談してもらいます。自分では要介護度はわからなく、重いほどわかりません。民生委員だけでなく支会の方だけでなく、八千代市は必ずその地域の自治会があります。どうしていいかわからないときは自治会にも相談した方がいいと思います。やはり皆さんでやらないとどうにもなりません。私の町会はそうしています。私の町会にしか目が行き届かないと思いますが、何か気が付きましたら情報提供をしていきたいと思っています。民生委員に相談が行き大変だと思いますので、自治会の協力をお願いしたいと思っています。

八巻 様々のご意見ありがとうございました。時間も迫ってきましたので、山下先生から今日出たいろいろなご意見に総評ということでお話をいただければと思います。お願いいたします。

ありがとうございます。まずは生活支援体制整備事業で八千代市は平成 27 年から第 1 層の協議体が設置されて、そこで協議を進めながらコーディネーターを翌年に八巻委員を選出して、その中でアンケートを 500~600 名規模で取りながら生活ニーズを明らかにしようと思いました。資源のマップ作りをしながら、勝田台地域をモデル圏域と定めて協議体を作って、昨年平成 30 年度に第 2 層のコーディネーターの体制が作られた流れの中で、ニーズの把握や担い手養成・コーディネーターの配置というのを含めて順調な流れがあるという報告を各圏域からいただいたのだろうという把握をさせていただいた感じです。それはとてもいいことでこういった体制を力づけていくのがいいのだろうと思いました。2 層のコーディネーターの方が八千代市の地域包括センターに配属されていて、取り組みと課題を毎回明確に報告していただき、また 1 層のコーディネーターと 2 層のコーディネーターが 2 ヶ月に 1 回会議で意見交換をして報告をいただいているので、システム的には上手く動き出しているのだろうという気がしました。一方で今日皆さんからいただいたご意見等をメモしていたのですが、広範囲で上手く纏め切れないのですが、気になったのが来年度以降の協議体のメンバーの問題意識をもう少し共有した方がいいのではないかと。体制整備事業や協議体と自治体が特にこの制度は高齢者の介護保険制度がタッチしようとしている地域づくりや地域福祉の仕組みの内容なのですが、先程伊藤委員がおっしゃったように高齢の夫婦の暮らしぶりや日中独居の高齢者や要支援状態の方がどのように暮らしていて、一人でできることは何か、隣近所、支会や有償ボランティアを含めた他者の助けが必要なのは何かを 1 層のメンバーで共有するということが協議体の議論では重要で、ケアマネジャーさんや事業者団体の方は入居や利用されている要介護状態の方の課題ばかりを見るのではなく、できることならその手前の在宅の時点でどのように施設や要介護重度の方の訪問サービスが始まっているか。その手前を意識していただいて予防体制の強化を八千代市としてどのように進めていくか、手前の方がご自身や家族だけでなく他者の繋がりをどれくらい必要とするかが現状です。それを体制整備事業で作っていくことで住みやすくなっていく。ご近所付き合いが得意な方はそれまでの関係性の中で一人暮らしが在宅で可能なのだけれど、先程の息子さんのケースや良かれと思って扶養の制度を使っているのかもしれないけれど、日中独居や実態として二人暮らしの方の寄り添い方をそれぞれの立場の整合性や住民活動をしている生の声を 1 層レベルでも集めてみるというのが重要で、午前中に八千代市の地域福祉計画の議論をしていたのですが、八千代市は圏域や地域性によって 2 世帯が多く一人暮らしがピンと来ない人が一定層いますが、一人暮らし問題は深刻なはずで。高齢者世帯もどちらかが亡くなれば明らかに一人暮らしになります。どちらかが病気になって介護保険医療を受けてそれが身近になって、すぐに地域包括支援センターが必要な時期を迎えるのは明らかです。その時にどのように繋げたらいいのか仕組みもあった方がいいです。その話は地域包括支援センターの認知度は上がっているし、もし地域福祉計画で決めればですが、行政で福祉総合相談室、何でも引き受ける窓口を行政として設けると決めれば包括と行政の福祉相談室と保健センターや民間組織だと社会福祉協議会や民生委員・児童委員連絡協議会、もっと身近なところなら支会レベルで、そうした相談をきちんと受け止めるという体制があれば、最初は介護保険を知らなくても利用しながら実態は学んでいくという状況なので、介護保険の周知の即効性はあ

と思います。利用していないのに利用しているというのが本音だと思います。

今日の協議のテーマは要支援状態にある方か要支援状態の手前の方の高齢の方の生活の中で生活支援体制がどのように必要かを意識しながら議論していくのだと思います。ゴミ出し問題が多く出ているのならどこかでテーマにしていくでしょう。浦安市は住民で話し合える場を剥奪されて行政が直接やってしまいました。いつまでも行政がやってくれるとは思えません。

移送サービスも修正されたというのはとてもいいと思いました。スーパーの送迎バスのコースを変更してもらったというのはいいですね。こうした動きが総合的に相まって生活支援体制整備になるので、皆さんからの話では高齢者自身や個人レベルだとこの生活支援体制整備は話す・笑う・会う・食べる・予防する・集まる・作る・担う・孤立しないなどの言葉に体制整備の各事業が整っていると思います。担うということでは担い手養成講座でサークル作りまで持ち上げていった圏域もありました。一方で企業や事業所団体や法人・専門職団体は既存の仕組みを修正するとか調整するとか開発するとか、場合によっては福祉以外の他部局や部門の総合面で働きかける・協働するといった発想でこの会議を運営していく役割があります。行政は体制整備そのものを担いつつ、高齢者の特に要支援状態の方もしくはもう少しボーダーな方の生活実態の把握を強化させていくことを行政として考えるかどうかが宿題のような気がします。要支援状態の方の把握は民生児童委員や地域包括支援センターの包括的相談の中や、ケアマネジャーやケアサービスの対象でない時に、断っている相談が多いと思います。その断っている相談の中から体制として何かセッティングできるものを作っていないと、高齢者が尻込みしてしまう、これは人に頼めないと思ってしまう。断ってしまう人や内容があれば少し出し合って皆でどう解決するかというのが第2ステージの一つ目だと思います。

二つ目は地域によって全域ではないですが、買い物が困難な方いらっしゃるすると、衣食住の一番大事な部分が損なわれている状況なので、それをどのように解決していくのか行政を含めた全体で考えるとなると、事業者団体は生活支援サービス系の事業等に生活支援を買うことが高齢者の生活が損なわれないような体制にそういった事業が関わってくれるかどうか。企業とすれば買い物客が増えるので嫌な話ではないので、そこで送迎サービスが付くと1回当たりの購入額2000円が普通だとしても、月1回や週1回位のサービスを受けたら購入単価が5000円に上がるというデータがあるらしいので、企業側は嫌な話ではないと思います。民間への積極的な働きかけを1層のコーディネーターや行政も一緒に進めて、その実態は圏域によって違うので2層の方も一緒に考えてみる。2層の中でも圏域が1つではなくもっと細かく刻まれていて生活の文化が違うからコーディネーターの圏域はそうした6圏域だと思いますが、実際文化圏域はまた違うと思うのでそうした提起をこの協議体でいただくということを通して八千代市の生活支援体制整備をどう作るかということを実体化させていくのがこの会議のおもしろいところなのだと思います。地域福祉計画がこうした体制や圏域や住民参加など八千代市でどう整備されるか議論されているところなので、課は違いますがやる方向性や目指すところは一緒だと思います。地域福祉計画との関係や地域福祉活動計画との関係を、こちらの方がかなり走っているので採用される方がいいと思いながら聞いていました。少し混乱させてしまう発言内容でしたが、以上です。

八巻 ありがとうございます。先生や皆様からいただいたご意見を踏まえて来年度また調整を行っていききたいと思います。今後とも、また新会長になりましたので新会長の下、頑張っていきたいと思います。会長一言お願いします。

保坂 今日はお疲れ様でした。初めてお会いした方もいたと思いますが、皆さん何となく先生の話聞いてイメージが掴めたのではないかと思います。私はとても納得する部分があって、出て来て話さないと何も始まらないと思います。サロンをやっているその通りで、輪ができるといろんな話やいろんな相談事を知ることができて、顔見知り地域でだんだん増えてきたのを今年は本当に実感しています。ここに来てコロナ騒ぎになってここ数日はそういった活動に対して休みにするという話をしています。そうすると本当に泣きそうな顔をされてしまいます。「皆と会えるのが本当に楽しみだったのに寂しい」「行けなくなるのね」と言われ、「感染しないよう、させないように家にいて頑張りましょう」「ラジオ体操をしましょう」などいろいろな話をしました。民生委員としてもできる限り訪問して声掛けして、せっかく繋がった手を放さないようにしなくては行けないかと思っています。すごく不安に思っている方もいますので頑張っていかななくては行けないかと思っています。本当に助けてほしいのは要支援の前後の方で、本当に先生のおっしゃる通りだと私も思いました。何とか皆さんで支え合っていけば絶対に生きていけると思うので、そういうヒントが得られるように皆さんで知恵を出して頑張っていきたいと思います。微力ですけれどもよろしくお願いします。

八巻 その他ということで事務局からお願いします。

鈴木 連絡事項です。今年度の会議は今回で終了となります。来年度は年2回を計画しています。次回会議は来年度7月頃を予定しています。また期日が近づきましたら解説集を送らせていただきますのでよろしくお願いします。これで本日の会議は終了させていただきます。ありがとうございました。